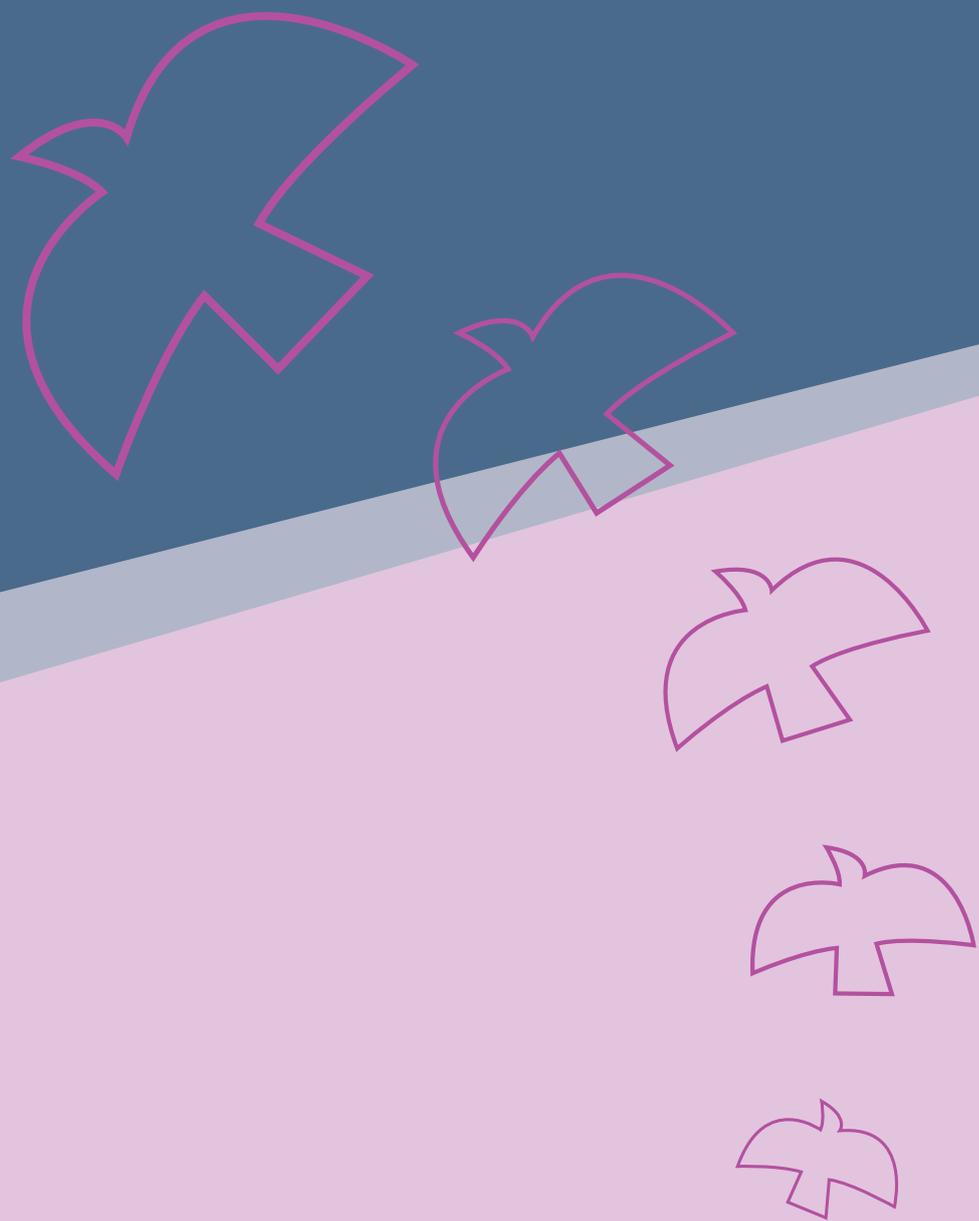


国連 持続可能な開発のための教育の 10 年

2014 年に向けて ESD 推進の基盤を整えた 1 年



ESD-J2010 活動報告書



目次

ESD-J 2010年度の成果ダイジェスト	2
数字で見る2010年度の ESD-J	3
地域ネットワークプロジェクト	4
世界的な市民の活性化の流れをさらに促進するために	5
地域1 「ESD×生物多様性」プロジェクト	6
地域2 学校と地域の連携によるESD推進モデルづくり	8
政策提言・調査研究プロジェクト	10
2014年に向けた行動計画づくりと連携取組みの強化	11
政策1 「2014年に向けた活動方針」の策定	12
研修・普及啓発プロジェクト	14
多様な場における研修をESDの見える化につなげる	15
研修普及1 ESD推進のための協働プロジェクト「+ESDプロジェクト」の実施	16
研修普及2 ESDコーディネーター育成のモデル研修プラン、並びに指針の作成	18
研修普及3 ESD戦略講座 ESD的アプローチ実践講座のモデル実施	19
研修普及4 ESDの実践者を知り、語る「ESDカフェ」の開催	20
研修普及5 企業におけるESD(=CSR教育)の調査、支援	21
情報共有プロジェクト	22
ソーシャルメディアを活用した新たな情報発信の展開へ	23
情報1 機関紙「ESDレポート」の発行	24
国際ネットワークプロジェクト	26
ESD国際ネットワーク構築に向けた再出発	27
国際1 アジアESDネットワーク再構築に向けた検討	28
国際2 持続可能な開発の促進・強化に向けたフォーラムの企画・開催、提言の検討	30
ESD-J 2010年度活動履歴	32
団体正会員・賛助会員・連携交流団体名簿	34
役員および実施体制	35
2010年度予算・決算見込	36

※表記簡略化のため、文中の敬称は略させていただきます。

はじめに



ESD-J 代表理事 重 政子

ESD-Jは、設立年の2003年よりESDの10年の最終年までを4期に分け、それぞれに目標を置き推進してきた。2010年度はその第3期(2009～2011)の中間年にあたる。最終年2014年の達成目標を「持続可能な社会・地域づくりを進めるための「人づくり」を支える“しくみ”を構築する」と定め、2009年に作成した「14の政策提言」を会員や多様な分野にわたる関係者とともに練り直し、「2014年目標と行動計画」として整理してきた。これは次年度(2011年度)に公開を予定している。

2010年度の重点目標の具体的な成果としては、

- ① ESDを推進するインフラとして、「+ESDプロジェクト」を本格スタート
- ② ESD推進を担うコーディネーターの育成のあり方について、「とりまとめ文書」を作成
- ③ 学校教育におけるESD推進について、教員/コーディネーター研修の実施を踏まえ、冊子「希望への学びあい2」を発行

が、挙げられる。更にはCBD/COP10への提言づくり、国際協力における提言づくりを通して、環境NGO、開発NGOとの連携が強化され、それらの組織とESDの使命の共有ができたことは大きな成果である。また、国際的なネットワーク形成においても新たな展開がみられ、今後これらを発展させ、ESD及び持続可能な社会づくりの推進につなぐことが問われていく。

本年度は代表理事の交代を受け、組織運営理事・地域担当理事の体制を導入した。地域会員との連携や交流をもとに、地域の実践者とのネットワーク強化や研究者との連携による政策レベルの研究等を具現化していくためにも、地域事業の開催などに着手し始め、今後の成果を期待する。

東日本大震災への対応では、

多くの会員団体・個人が、緊急支援、学び合いの場づくりなどの実践活動に立ちあがっている。ESD-Jではウェブサイト・会員メーリングリストを活用して、情報発信と後方支援に務めてきた。よりESD的な貢献が展開されていく中、ESD-Jはネットワーク組織として、第一義的にはそれらの動きを把握し、伝えることで、より多くの活動を誘発していく役割を果たしていく。そして、いのちと多様性を大切に、地域コミュニティが主体となった地域の復興・再生の支援や、エネルギーをはじめとするさまざまな暮らしを支える必需品の生産と消費のあり方を問い直す学び合いの場づくりを通して、会員の皆さまとともにESDの実態をつくっていきたい。ESD-Jの立場から、個別の問題に対して組織的な判断を急ぐ前に「多様な立場の人が語りあえる学びの場づくり」を全国に呼び掛けた。対立を恐れず、議論を尽くし、対話に進化させるプロセスにこそ、各自が自らのシチズンシップを高め、主体的に、社会の仕組みを変えていく基盤が育つと考える。これがESD-Jとしての使命、“人づくり”を標榜している存在意義と確信する。

ラインホールド・ニーバーは、“ニーバーの祈り”として

神よ、
変えることのできるものについて、
それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。
変えることのできないものについては、
それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。
そして、
変えることのできるものと、変えることのできないものとを、
識別する知恵を与えたまえ。

(大木英夫 訳)

と残している。新しい時代を創生していく起点に立つ、私たちも今一度の勇気(COURAGE)と冷静(SERENITY)と知恵(WISDOM)をもって飛躍することが求められている。

ESDのテーマ研究と具現化への整理

ESD×生物多様性

「ESD×生物多様性」プロジェクト ☞ p6

- 成果1** 生物多様性保全には地域づくりの視点と担い手育成が大切という認識を CBD/COP10 等でアピール
- 成果2** 組織間のネットワークを構築
- 成果3** 生物多様性を大切にした地域づくりに必要なプロセスやノウハウを整理



学校と地域の連携

「学校と地域の連携による ESD 推進モデルづくり」 ☞ p8

- 成果1** 東京都の学校支援コーディネーター等へ ESD を普及啓発
- 成果2** 多摩市の教員等へ ESD 実践研修を実施
- 成果3** 多摩市 ESD・ユネスコスクールセミナーを開催
- 成果4** 「希望への学びあい2」を発行



ESDのプラットフォーム構築

+ESDプロジェクト

ESD 推進のための協働プロジェクト「+ ESD プロジェクト」の実施 ☞ p16

- 成果1** データベースシステムを構築・本格稼働
- 成果2** 多様な分野・セクターの団体が参画した普及委員会を発足
- 成果3** 地域のESD推進主体へ「+ESDプロジェクト」の理解を促進
- 成果4** 「+ ESD プロジェクト」キックオフシンポジウムを開催



2010年度は、ESDのテーマ研究を深化させ、具現化に向けた整理を進めた年でした。
また、ESDのプラットフォームを構築し、2014年に向けたESD推進の基盤整備を行いました。

コーディネーター育成

「ESDコーディネーター育成のモデル研修プラン、並びに指針の作成」 ☞ p18

- 【成果1】 ESDコーディネーター像・役割・必要な視点等を整理
- 【成果2】 ESDコーディネーターの育成に関する2種の育成型態をモデル実施
- 【成果3】 上記2点について政府のとりまとめに明記



国際協力・国際貢献

「アジアESDネットワーク再構築に向けた検討」 ☞ p28
「持続可能な開発の促進・強化に向けたフォーラムの企画・開催、提言の検討」 ☞ p30

- 【成果1】 アジアでのワークショップを実施
- 【成果2】 東京にて国際公開フォーラムを開催
- 【成果3】 NGO連携検討会合提言を取りまとめ
- 【成果4】 NGO連携フォーラムを企画・開催



数字で見る 2010年度のESD-J ()内は2009年度の数字

●ネットワーク

団体会員：**109団体**(115団体)
正会員83(91)、準会員15(14)
賛助会員6(5)、連携・協力団体5(5)

個人会員：**301名**(334名)
正会員117(125)、準会員184(209)

メルマガ登録者：**2,118名**(1,862名)

●事業

実施事業数：**22事業**(25事業)
共催・後援事業数：**15事業**(15事業)

●情報発信

ウェブサイト記事発行数：**149記事**(174記事)
メルマガ：**16本**(18本)
会員メーリングリストの投稿数：**627本**(586本)

(2011年3月末現在)

2010年度の重点項目

- 生物多様性をキーワードとした地域づくりにおけるESD的なアプローチの大切さとそのノウハウなどを取りまとめ、地域の人材育成に資する蓄積を行う。
- ユネスコパートナーシップ事業を通して、NPOと教育委員会の連携による、学校におけるESD推進の施策のあり方を探る。

2010年度の主な地域ネットワーク事業

1) 「ESD×生物多様性」プロジェクト (☞p6)

国内外の生物多様性を大切に持続可能な地域づくりの実践を人づくり(=ESD)の側面から分析し、ESDを地域で広げ、深め、つなげるための効果的なアプローチ方法やノウハウをとりまとめ、生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)に向けた提言を作成した。

2) 学校と地域の連携によるESD推進モデルづくり (☞p8)

東京都および多摩市の教育委員会と連携し、学校と地域が連携したESDの課題やノウハウの抽出、学校コーディネーターを対象としたESD的なコーディネーターのあり方や学校コーディネーター主導のESD実施の課題やノウハウを抽出した。

3) ESD全国ミーティングの開催

ESD-JのESDの10年後半に向けた展望の中の主なテーマについて、①ESD-Jの2009年度の成果を共有、②関係機関や他の実践者の情報をインプットをふまえ、会員をはじめとする参加者全員で、当面すべきこと、できることを自由に話しあう場をつくった(6月12日開催)。



4) 地域ミーティングの開催

地域における会員同士の交流の促進や新しい関心層の開拓、学び合いなどを目的とし、地域のニーズや状況に沿った内容でブロックごとに地域ミーティングを開催した。

世界的な市民の活性化の流れをさらに促進するために

理事/地域ネットワークPTリーダー：森 良
(エコ・コミュニケーションセンター)



中東における新たな市民革命の特徴は、「自由と自立」「人間の尊厳」を求め非暴力直接行動の形をとっていることです。内容的には、体制変革志向と生き方(ライフスタイル)の変革志向とが一体となっていることです。そこには、地域や宗教などの伝統的コミュニティだけではなく、若者たちの連帯などの新たな人のつながりの活性化が見られます。

こうした特徴は、中東だけではなくラテンアメリカにおいても、そして日本においても共通して見られるようになってきました。わたしのまわりでもこんなことがありました。

先日「いたばし総合ボランティアセンターの新たな出発のつどい」というものがあり、そこでわたしは150人の参加者によるワールドカフェのホストをつとめました。テーマは「なになが変わる? なにを変える?」でした。一番多く出たのは、大震災・原発事故による節電を契機にライフスタイルを変えることです。もう一つの柱は、お上(行政)を頼らず自分たちでやるということです。

ESDは、環境・経済・社会を結んで問題解決する市民の能力向上を目指していますが、それに適した環境が世界的な流れとして生まれつつあるようです。

この流れを加速するにはどうしたらよいでしょうか。その答えは、社会や地域の中で教育・学習を推進している教師や職員、リーダーたちのエンパワーメントを進めることです。

そのことをわたしは、2009～2010年の「多摩市教育委員会ESD研修」の中で学びました。子どもたちの自発性を大事にしたストーリーを持った探求型の学びをつくるのがこの研修の目的でしたが、とった方法は先生たちの自発性を大事にすること(各学校での既存の授業・活動の見直しを自ら進める)でした。これまで各教師が取り組んできたことはよい内容である、しかしもっとよくするにはどうしたらよいかという問いかけに、先生たちは真剣に答えてくれたのです。

同じようなことが、社会教育の集まりでありました。1月に東京特別区社会教育主事会50周年の「これからの社会教育主事への期待・役割」という集まりでは、「社会教育の原点に立ち戻る」ことが語られ、社会教育主事の役割として、①非形式的な学びの場をつくる、②住民によるコミュニティをつなぐ、③コミュニティをまとめ行政とつなぐという方向が期待を込めて語られ、それに対してわたしからも④市民の力量形成の支援が必要であるというエールを送りました。

NPOのリーダーたちはどうでしょうか。すでにESD-Jに関わっているNPOはよいとして、自分たちのやっていることが市民の能力向上につながっているということ意識していないところが多いのではないかと思います。これに対する処方箋は、上記のような流れに彼ら・彼女らを巻き込んで自ら気づいてもらうことです。+ESDプロジェクトの事業はこれに当たるでしょう。

以上、いま世界、日本、地域で起きている動きの中でどのように地域でのESDの取組みを広げていったらいいかの基本的方向性を描いてみました。大事なことは、物事の本質やポイントをつかみ、それぞれのやっていることや各方針をつなげていくことです。目的意識のないバラバラな取組みは、労多くして益少ない結果しかもたらしません。ESDを進める上での基本をしっかりさせていくことが大事です。

「ESD×生物多様性」プロジェクト

国内外の生物多様性を大切にしたい持続可能な地域づくりの実践を人づくり（＝ESD）の側面から分析し、ESDを地域で広げ、深め、つなげるための効果的なアプローチ方法やノウハウをとりまとめ、CBD/COP10に向けた提言を作成しました。

この事業でめざしたこと

生物多様性を大切にしたい地域づくりの取組みや、活動における「教育・人づくりの要素」を発掘・整理・公表し、同様の取組みを国内外に広げるとともに、地域のESDネットワークを維持・拡大する。

成果

- 1 生物多様性保全には、生物多様性を大切にしたい地域づくりの担い手を増やしていくことが大切という認識を、環境NGOや国際協力NGOにアピールすることができた。
- 2 同じベクトルを持った組織とネットワークをつくることができた。
- 3 生物多様性を大切にしたい地域づくりに必要なプロセスやノウハウを整理することができた。

プロジェクトの体制

リーダー： 森 良、鈴木 克徳

事務局： 村上 千里、野口 扶美子

協力者： 嵯峨 創平(環境文化のための対話研究所)、壽賀 一仁(あいあいネット)
10地域の担当者(理事および会員)、地方環境パートナーシップオフィス
国連大学、アジアのESD推進組織など

事業の主なプロセス

<事例分析検討ワーキンググループ>

生物多様性を大切にしたい地域づくりに取り組むESDの事例から、地域のエンパワメントのプロセス分析を行い、効果的なアプローチ方法やノウハウ、コーディネーターの働きなどについて整理した。

<地域ミーティング>

岡山(4月25日)、鹿児島(5月15日-16日)、宮城(5月29日)の3ヶ所で地域ミーティングを開催し、実践の現場で学び合いのワークショップを行い、ネットワーク強化の場とした。

<国際ワークショップ>

インドネシア・スラバヤにおいて、アジアでESD推進に取り組む5カ国7団体のNGOとともにワークショップを開催し、CBD/COP10に向け、生物多様性保全におけるESD的アプローチの重要性と連携の必要性をアピールした文書を作成した。

<CBD/COP10でのパンフレットの配布およびアピール>

CBD/COP10の生物多様性交流フェアにブースを出展し、ESD的アプローチの重要性とノウハウをまとめたパンフレットと、CBD/COP10への提言パンフレット、およびCBD市民ネット開発作業部会のポジションペーパーを配布した。また、CEPA（広報・教育・普及啓発）のような関連公式サイドイベントにも参加をし、アジアの市民社会の果たす役割と、ESDについてのアピールを行った。

<国際フォーラム>

10月19日、国際自然保護連合(IUCN)やCBD事務局のCEPA担当者らとともに、ESDと生物多様性CEPAの相乗効果をどうやっていくかをテーマとした国際フォーラムを開催した。

【発行物】

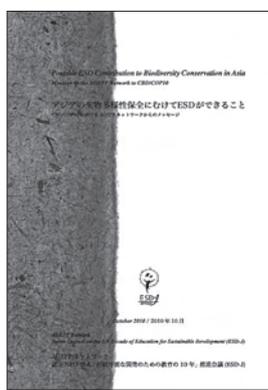
- 「ESD×生物多様性しんぶん」(年4回、A4・6000部)
- CBD/COP10に向けた提言パンフレット2種(各8ページ、1000部)
- 「ESD×生物多様性」プロジェクト2010報告書(96ページ、800部)



「ESD×生物多様性しんぶん」



CBD/COP10に向けた提言パンフレット(2種)



「ESD×生物多様性」プロジェクト2010報告書

プロジェクトの自己評価

担当理事：森 良（エコ・コミュニケーションセンター）・鈴木克徳（金沢大学）

- 1) <生物多様性・文化多様性を大切にしながら持続可能な地域づくり>の方向性を明らかにした。「地域の人たち自身による調査・学習をベースとして、ていねいな合意形成を図ること」は、500kmにわたる東日本大震災の被災地においても住民主導の復興を進めるために重要である。「復興」に名を借りた大規模な自然破壊や環境アセスメント抜きの開発をまかり通らせてはならない。
- 2) CBD/COP10に向け多分野のNGOとの協働を実現した。これは愛知目標*実現に向け大きな足がかりとなる。
- 3) 国際フォーラムにおいて、CBD事務局関係者、IUCN等とESDによるCBDへの貢献の可能性について認識を共有し、CBDとESDとの連携を推進することを合意した意義は大きい。今後、生物多様性の10年(CBDの10年)の推進に際し、ESDの10年を通じて培ってきた活動を基盤とすることにより、CBDのより円滑な推進が期待できる。

*愛知目標：CBD/COP10において採択された2011年以降の新戦略計画

学校と地域の連携によるESD推進モデルづくり

東京都および多摩市の教育委員会と連携し、学校と地域が連携したESDの課題やノウハウを抽出するとともに、学校支援コーディネーターを対象としたESD的なコーディネーターのあり方を整理しました。

この事業でめざしたこと

学校と地域が連携したESD推進の実践的な課題とノウハウの抽出を行う。

成果

1 東京都の学校支援コーディネーター等へESDの普及啓発を行った。

各地域で実施したセミナーには、学校支援コーディネーターを中心に文京区で26名、板橋区で52名、小平市で33名の参加があり、ESDやユネスコスクールについてまったく認知していなかった層への普及ができた。また、東京都の教育支援コーディネーター・フォーラム（参加者300名）において、本事業の成果を紹介することにより、都内のコーディネーターおよび教育協力団体へ広くESDおよびユネスコスクールの紹介をすることができた。

2 多摩市の教員等へESD実践研修を実施した。

多摩市のESD実践研修に小学校11名、中学校9名の計20名の教員の参加を得た。また、研修には毎回数名～10名程度の多摩の市民団体や大学、及び地域外からもESDに関心のある支援者の参加があった。最終回の研修会には、研修参加者の他に、多摩市の29校の研究主任にも参加を得て、多摩市におけるESDおよびユネスコスクールの具体的な取組みを後押しした。

3 多摩市ESD・ユネスコスクールセミナーを開催した。

多摩市教員・多摩市職員72名、他地域の教員4名、地域の協力者や地域外のESD・ユネスコスクールに関心のある方9名、合計85名の参加を得て、多摩におけるESD・ユネスコスクールの面的な普及を行うことができた。

4 学校と地域で進めるESDパンフレット「希望への学びあい2」を発行した。



プロジェクトの体制

リーダー： 森 良

事務局： 佐々木 雅一

協力者： 東京都教育委員会、多摩市教育委員会、小川 理恵(ボランティア)

事業の主なプロセス

■東京都教育委員会 連携事業

(1) 学校コーディネーター ESD研究会(8月～12月)

東京都教育庁生涯学習課の協力を得て、地域の目線でESDの実践とユネスコスクールについて学びあうセミナーを都内3ヶ所(8月:文京区、12月:板橋区・小平市)で実施した。

(2) 地域と学校の連携によるESD推進フォーラム(2月)

上記成果を中心にユネスコスクールについて、東京都主催の教育支援コーディネーター・フォーラムで発表し、都内の教育支援コーディネーターへユネスコスクールの理解普及に努めた。



文京区でのセミナー

■多摩市教育委員会 連携事業

(1) ESD実践研修(7月～2月)

平成21年度のESD教員研修の受講生を中心にESDの実践について5回の研修(7月12日、9月6日、11月5日、2月1日、2月21日)を行った。特に今年度は、参加者からモデル実施校(小・中各1校以上)を選出し、授業の視察を含め、活動の成果、課題の抽出に向けた議論を通じて、ESD実践力向上に向けた研修を行った。

(2) 多摩市ESD・ユネスコスクールセミナー(8月)

多摩市の全小中学校および都内で、ESDやユネスコスクールに関心のある教員を対象に、夏休み期間にセミナーを開催した。

プロジェクトの自己評価

担当理事：森 良(エコ・コミュニケーションセンター)

- 1) 「既存の学習の見直し→ESD化」の方法論が多摩市の教員に定着したことは評価できる。そしてこれは、日本の教育を現場から変えていく教員がエンパワーされるアプローチゆえに、全国の教員と教育委員会に対して極めて有効な方法論である。
- 2) 東京都の教育支援コーディネーターの中に「ESDを学び地域と学校で教育をつくろう」という流れができたことは重要である。そしてこれは内部からのリーダーシップにより継続・発展していくだろう。

2010年度の重点項目

- 持続可能な社会の共通原則や2014年の具体的な目標、中期戦略を明確化し、重点分野における具体的な政策をつくるための調査研究を行う。
- 政府・他セクターとの連携の基盤として、「+ESDプロジェクト」や「社会的責任(SR)円卓会議」の枠組みを活用する。

2010年度の主な政策提言・調査研究事業

1) 「2014年に向けた活動方針」の策定 (p12)

2009年の会員アンケート及び理事会での議論をふまえ、ESDの10年後半におけるESD-Jの役割を明らかにし、また2014年までに重点的に取り組むべきテーマの絞り込みを行った。これらの検討に際しては、総会や全国ミーティング、行動計画検討ワークショップなどの場も活用した。

行動計画検討ワークショップ



2) 参院選に向け、ESD認知度向上のためのアクション実施

マニフェストへのESD掲載要望書の提出、公開質問状の送付・公開を通して、国会議員や政党へのESDの認知度の向上を図った。

3) 政府のESD推進体制強化、連携取組み(+ESDプロジェクト)の強化に関する提言活動

政府に対し、円卓会議の再開およびESD実施計画の見直しを働きかけるとともに、関係省庁や各機関が参画しやすいプラットフォームとして、「+ESDプロジェクト」を活用していくよう提案した。

4) 社会的責任(SR)円卓会議への参画

政府と多様なセクターの協働で現在進められている「新しい公共」を担う協働の仕組みである「社会的責任(SR)円卓会議」に参加し、ESDへの理解と共感を広げ、協働戦略にESDを位置づけることを目指した。

2014年に向けた行動計画づくりと連携取組みの強化

理事/政策提言・調査研究PTリーダー：池田 満之
(岡山ユネスコ協会)



(1) 「2014年に向けた活動方針」の策定、ならびに重点分野における調査・研究

2014年の達成目標と実現に向けたアクションプランを固めるところまでは到達できませんでしたが、プロセスを重視して、理事による議論、会員との行動計画検討ワークショップを行うなど、理事や会員の声をできるだけ取り入れたドラフトづくりを進めることができました。今後は、早急にアクションプランを固め、調査研究体制を整えて調査研究に着手するとともに、ファンドレイズにも力を注いでいきたいと思います。

また、ユネスコスクールなどESDに取り組む団体や仕組み・制度が拡大している中で、ESD-Jのポジションが社会的にも理事や会員の中においても曖昧になってきていますので、ESD-Jの役割や将来像を明確にしたり、ESD-J内部での情報の風通しを良くしたり、話しあったり協働できる場を多くつくることで、理事や会員の意識、モチベーションを高めて、取組みを活性化させていきたいと思います。

なお、CBD/COP10に向けた提言やアピールに関しては、地域ネットワークプロジェクトに記載しています。

(2) 参院選に向けたESD認知度向上のためのアクション実施

参院選では各政党に公開質問状を送り、主な政党から回答を得ることができました。特に、自民・公明からは、マニフェストへの具体的な掲載の報告も得ることができました。

(3) 政府のESD推進体制強化、連携取組み(+ESDプロジェクト)の強化に関する提言活動

ESDの10年実施計画の見直しにおいて、+ESDプロジェクトを日本のESD推進のインフラとすることなどを、政府案に盛り込んでいただくことができました。ESD-Jとしてのアクションプランを策定中であったことから、見直しに対する提言活動を個々の理事や会員に委ねることになりました。今後は、アクションプランが決まり次第、政府等への提言活動を強化していきたいと思います。

また、政府とともに、各政党に対しても政策提言活動を強化していきたいと思いますが、各政党とは一定の距離を保ちながら、議員の方々の意識改革を促すための勉強会の開催や、+ESDプロジェクト事業等への積極的な参席を促していきたいと思います。

なお、東日本大震災をきっかけに、各会員団体がそれぞれの特性を活かして、災害支援、研修など、実践活動に立ちあがり、メール等を通しての情報交換、意見交流、活動の連携や実践につながっています。ESD-Jとしては、これからも東日本大震災ならびに福島原発事故に関わる課題解決にむけて、あらゆる方策を探り、実践していきたいと思います。

(4) 社会的責任円卓会議への参画

ワーキンググループおよび協働モデル事業への参加を通じて、ESDの概念や取組み、政府の施策などを、多様なセクターの関係者に紹介することができました。また、「安全・安心で持続可能な未来に向けた協働戦略」に、+ESDプロジェクトへの参加・協力を盛り込むことができました。

今後は、地域での協働モデル事業のリソースとして、+ESDプロジェクトの地域フォーラムと連携できないかを模索したいと思います。

「2014年に向けた活動方針」の策定

2009年の会員アンケート及び理事会での議論をふまえ、ESDの10年後半におけるESD-Jの役割を明らかにし、また2014年までに重点的に取り組むべきテーマの絞り込みを行いました。これらの検討に際しては、総会や全国ミーティング、行動計画検討ワークショップなどの場も活用しました。

この事業でめざしたこと

ESDの10年後半に向け、ESD-Jの役割、2014年の目標、中期戦略などを明確化する

成 果

- 1 理事による議論、会員との行動計画検討ワークショップを経て、「2014年の達成目標と実現に向けたアクションプラン」のドラフトを作成した。（☞p13参照）

ドラフトでは、持続可能な社会の基本原則などは、既存のものを参考資料として紹介することとし、ESDのビジョンは、一般的なものではなく、より具体的なイメージを提示することとなった。

- 2 行動計画は、「学校」「コーディネーター」「広報」の3本柱でとりまとめた。

プロジェクトの体制

リーダー： 池田 満之
事務局： 村上 千里
協力者： 全理事
協賛： 日能研

事業の主なプロセス

4-5月	2009年度の議論の到達点の整理
5月8日	理事会 ESD-Jの役割、重点テーマ、事業方針、体制等について議論
6月12-13日	総会、全国ミーティング 方針について、また重点テーマの中身について、ESD-J会員による議論を深め、方針等に反映させる
9月5日	2014年目標 & 行動計画検討理事ミーティング① 総会で諮った中間とりまとめをベースに、「学校」「コーディネーター」「広報」の3本柱で議論
12月23日	2014年目標 & 行動計画検討理事ミーティング② 行動計画は公表し、地域ワークショップで会員から声を聞く場を設けることとした
12月27日	2014年目標 & 行動計画検討ワークショップin金沢(学校教育)
1月7・28日	2014年目標 & 行動計画検討ワークショップin東京(コーディネーター)
2月12日	2014年目標 & 行動計画検討ワークショップin東京(学校と地域で進めるESD)
3月21日	2014年目標 & 行動計画検討理事ミーティング③(地震により日程変更)
→4月3日	行動計画をブラッシュアップし、早急に公開して会員の意見をもらうこととした



「2014年目標 & 行動計画検討ワークショップin東京」での検討の様子

「2014年の達成目標と実現に向けたアクションプラン」のドラフト骨子

【2014年の目標】

持続可能な社会・地域づくりのための人づくり(=ESD)を支える仕組みを構築すること。

【ESD-Jの3つの重点目標とアクションプラン】

1. 学校教育におけるESDの推進

(2014年の目標)

- すべての幼稚園、小学校、中学校、高校等の初等中等教育機関においてESDが教えられている。
- 幼稚園、小学校、中学校、高校、大学等の校種間のESDに関する連携が進み、幼稚園児や小学生等が高校生や大学生から、あるいは彼らと一緒に学びあうようになっている。
- 公民館や図書館、動物園等の地域の機関や地域社会の人たちと学校との交流が進み、地域の特性・資源を活かしたESDカリキュラムの開発・実施に向けた協働が進められている。

2. ESD推進を担うコーディネーターの育成と社会化

(2014年の目標)

- 各市町村の市民活動の中間支援組織や社会教育施設、大学等におけるさまざまな分野のコーディネーターがESDの視点を持ち、ESDを意識した学びのコーディネートが進められている。
- ESDの視点で学習や活動を促進するさまざまな学習コーディネーターの連絡会議がつけられ、地域の中でESD推進のための連携が進んでいる。
- コーディネーターの活動を支え継続・発展させていくための、市民の自発的活動と調和した自然なコーディネーターの制度化と行政予算だけに依存しない地域をベースとした協働型の活動資金の確保ができ、ESDのコーディネートが継続的に進められている。

3. ESDの広報と、ESD実践者および推進組織がつながるインフラの構築

(2014年の目標)

- 行政、教育機関、NPO/NGOなど、主要な教育および社会活動の担い手に、ESDの概念が認識され、それぞれの取組みの中に取り入れられている。

プロジェクトの自己評価

担当理事：池田 満之(岡山ユネスコ協会)

- 1) 「2014年の達成目標と実現に向けたアクションプラン」を固めるところまで到達できなかったため、目標としていた調査研究体制と計画づくりや、調査研究への着手と次年度に向けたファンドレイズにまでは踏み込めなかった。しかし、成果以上にプロセスを重視して、理事による議論、会員との行動計画検討ワークショップ等を行って、時間はかかっても理事や会員の声をできるだけ取り入れたドラフトづくりを進めていった点は評価していいのではないかと考える。
- 2) ユネスコスクールなどESDに取り組む団体や仕組み・制度が拡大している中で、ESD-Jのポジションが社会的にも理事や会員の中においても曖昧になってきたことが、取組みの進捗を鈍化させている。特に、環境省や文部科学省等の請負業務が多くなることで、官の代行的なコンサルタント的ポジションが強まり、そのことがより一層、ESD-Jのポジションをわかりにくくしている。もっとも、この点は理事レベルでも十分意識していて、常にESD-Jの将来像を意識しつつ話し合いや活動を進めてきた点は評価していいのではないかと考える。
- 3) ESD-J内でコンサルタント業務が増えることで、ESD-Jの実務を理事ではなく事務局スタッフと外部委託協力者が担うことが多くなり、理事が実情を把握できにくくなっている。このことが政策提言への原稿づくり等の作業を難しくしている。ESD-J内部での情報の風通し、実務への幅広い理事の参画の機会を増やしていくことで、作業の促進を図りたい。

2010年度の重点項目

- さまざまな事業や機会をとらえ、ESDコーディネーターの役割や技能、育成方法について調査研修を進め、提言に取りまとめる。
- 多様な主体が参画しESDを推進する仕組みとして、+ESDプロジェクトを立ち上げ、多様な実践事例が登録されるウェブサイトの本格稼働、有益な地域での学び合いの場づくり等に取り組む。

2010年度の主な研修・普及啓発事業

1) ESD推進のための協働プロジェクト「+ESDプロジェクト」の実施 (☞p16)

ESDの実践活動を推進するため、多様なESD活動を可視化し、地域で交流・学び合いのできる仕組みを、官民の協働でスタートさせた。

+ESDプロジェクト ロゴマーク



2) ESDコーディネーター育成のモデル研修プラン、並びに指針の作成 (☞p18)

ESDを地域で推進するコーディネーターの資質、育成方法などについて調査・研究・検討を深め、「ESDコーディネーター育成のあり方について」を作成した。

3) ESD戦略講座 ESD的アプローチ実践講座のモデル実施 (☞p19)

2009年に環境保全戦略講座として開発・実施した講座をブラッシュアップし、地域でESDを組み立てていく際の知識やスキルを、実践も交えながら学ぶ研修を実施した。

4) ESDの実践者を知り、語る「ESDカフェ」の開催 (☞p20)

実践からESDを学ぶ場を定期的に提供するとともに、会員の参加/交流の機会をつくった。

5) 企業におけるESD (=CSR教育)の調査、支援 (☞p21)

CSR担当者向け研修や企業内研修等により、企業におけるESDの普及啓発やESD的な手法の普及を行った

6) 出前講座・研修・ワークショップの開催

ESDに関連する各種講演や研修等の依頼に応じて、ネットワークから適切な講師を派遣した。多様な場における研修をESDの見える化につなげる。

多様な場における研修をESDの見える化につなげる

理事/研修・普及啓発PTリーダー：大島 順子
(琉球大学)



2010年度の研修・普及啓発プロジェクトは、「ESDの理解推進、地域での活動をひろげ、つなぐための研修および啓発事業を行う」ことをミッションとし、6つの事業を実施しました。

1) ESD推進のための協働プロジェクト「+ESDプロジェクト」の実施

ESDの普及と一般化を目指し、多様なESD活動を可視化し地域で交流・学び合いのできる仕組みを、官民の協働でスタートさせた「+ESDプロジェクト」において、データベースシステムの構築など、これからの活動に必要な基盤整備がようやくできあがりました。ウェブサイトの本格オープンが2011年2月ということもあり、活動登録数は57件(2011年3月現在)に留まっていますが、次年度に大きな飛躍が期待されます。ESDの実践活動を推進するために、構築したシステムや関係者とのつながりを十二分に活かし、地域における具体的な連携・学び合いをより「見える化」していく工夫と多方面への働きかけを継続して行います。

2) ESDコーディネーター育成のモデル研修プラン、並びに指針の作成

検討会において、コーディネーターに必要な7つの視点などを整理し、ESDコーディネーターの育成に関するモデル実施を踏まえ、実践プログラム例、企画・広報・実施・評価段階での留意点、意義と課題について整理できたことは、大きな成果といえます。実際に研修プランを実行できたことで検証する機会を得ましたが、広く普及するための具体的な方策を練る必要があります。既存のESDの視点を持った地域づくり実践におけるコーディネーター育成の組織との連携を育むプロセスを大事にしていきます。

3) ESD戦略講座 ESD的アプローチ実践講座のモデル実施

2009～2010年に環境保全戦略講座として開発・実施した講座を発展させ、地域でESDを組み立てていく際の知識やスキルを実践も交えながら学ぶ研修を実施し、参加者より満足度の高い評価を受けました。今年度は「伝える技術」「調べる技術」「引き出す技術」を取り上げましたが、地域でESDを進めるのに必要な技術を体系的に整理し、コーディネーター個人としての弱み強みを意識することにつながるよう、全体像を把握しておくことが必要です。今後の研修企画には、過去の参加者らを交えた企画検討委員会の設立や運用が期待されます。

4) ESDの実践者を知り、語る「ESDカフェ」の開催

専門家の来日機会を活かし、国際的なテーマでESDカフェを開催することができ、従来にないESDカフェのスタイル構築につなげました。今後も、さらなるESDの普及と会員の参加/交流の機会創出のために、自主勉強会や広く対象者を募るESD入門講座等の企画をESDカフェとして展開していくことも検討する必要があります。

5) 企業におけるESD (=CSR教育)の調査、支援

経団連研修に参加した企業のCSR担当者向けにESD研修を実施できたことは大きな成果でした。継続的なフォローアップの仕組みとして、企業を対象としたESD研究部会の立ち上げを支援していきたいと思えます。企業におけるESDの取組みは益々求められているので、時代のニーズに対応し専門性を持った組織としてのESD-Jの戦略的な事業として位置づけ、強化していくことが望まれます。

6) 出前講座・研修・ワークショップの開催

依頼先からの要望に応じた講師の派遣の実績は評価できるものの、出前講座・研修・ワークショップ開催の積極的な働きかけは、ESDの推進・普及に使命を持った組織として不可欠なものです。ESDに関連する各種講演や研修等の依頼に応じて、ネットワークから適切な講師を派遣する「登録講師制度」構築の検討が急がれます。

ESD推進のための協働プロジェクト 「+ESDプロジェクト」の実施

ESDの実践活動を推進するため、多様なESD活動を可視化し、地域で交流・学び合いのできる仕組みを、官民の協働でスタートさせました。(環境省請負事業)

この事業でめざしたこと

ESDの実践の「見える化」によるESDの認知度向上、連携促進を図る。また、ESDの目指す方向を示し、交流学び合いを図り、地域の活動の活性化を図る。

成果

- 1 データベースシステムを構築・本格稼働させたことにより、登録されたESD活動を誰もがウェブサイト上で閲覧できるようになった。
- 2 多様な分野・セクターの団体が参画した普及委員会を発足することができ、マルチステークホルダーで事業を推進していく基礎をつくることができた。
- 3 地域のESD推進主体に対し「+ESDプロジェクト」の理解促進を行った。
- 4 「+ESDプロジェクト」キックオフシンポジウムでは、多分野の参加者同士の交流が得られた。

プロジェクトの体制

リーダー： 枚本 育生
 事務局： 佐々木 雅一、鈴木 祐司、長澤 正嘉、村上 千里
 協力者： 中川 哲雄(ライター)



+ESDプロジェクトの登録ウェブサイト
 (<http://www.p-esd.go.jp>)

事業の主なプロセス

- データベースシステムの構築
 - 2月14日 ウェブサイト&データベースシステムの本格オープン
- 委員会の開催
 - 11月4日 「+ESDプロジェクト」ロゴマーク選考委員会
 - 2月18日 +ESDプロジェクト普及委員会・幹事会
 - 3月1日 +ESDプロジェクト普及委員会・総会
 - 3月7日 +ESDプロジェクト検証検討委員会
- +ESDプロジェクト・キックオフシンポジウムの開催
 - 3月1日 東京・JICA研究所 82名参加
- 地域ブロックミーティングの開催(全国8ブロック)
- アンケート調査及びヒアリング調査
- 広報用資料「+ESDプロジェクト」の発行
(B5版リーフレット・1万部)



+ESDプロジェクト・キックオフシンポジウム



広報用リーフレット

+ESDプロジェクト普及委員会

(2011年3月現在)

活木活木森ネットワーク
 NTTレゾナント 環境goo
 NPO事業サポートセンター
 河川環境管理財団
 ガールスカウト日本連盟
 共存の森ネットワーク
 グリーンメディアアライアンス
 国際協力NGOセンター (JANIC)
 国際協力機構 (JICA)
 国連大学高等研究所 (UNU-IAS)
 持続可能な開発のための教育の10年推進会議
 全国公民館連合会
 全国小中学校 環境教育研究会
 全国青年環境連盟 (エコ・リーグ)
 都市と農山漁村の共生・対流推進会議
 都市農山漁村交流活性化機構
 日本環境教育フォーラム
 日本グッド・トイ委員会
 日本グリーンツーリズム・ネットワークセンター
 日本国際理解教育学会
 日本持続発展教育推進フォーラム
 日本商工会議所
 日本博物館協会
 日本福祉教育・ボランティア学習学会
 日本ユネスコ協会連盟
 100万人のふるさと回帰・循環運動推進・支援センター
 ボイスカウト日本連盟
 森のようちえん全国ネットワーク
 ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク
 「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議
 内閣官房、外務省、文部科学省
 環境省、内閣府、総務省
 農林水産省、経済産業省、国土交通省
 法務省(オブザーバー)
 厚生労働省(オブザーバー)

プロジェクトの自己評価

担当理事： 榎本 育生 (環境市民)

データベースシステムの構築・本格稼働、普及委員会の発足、「+ESDプロジェクト」キックオフシンポジウムの開催など、これからの活動に必要な基盤整備ができたことは、ひとつの前進だといえるが、「+ESDプロジェクト」およびESDを広げるといふ目的から言うとスタートラインに立ったばかり、次年度に大きな飛躍が必要と思われる。

ESDコーディネーター育成のモデル研修プラン、並びに指針の作成

ESDを地域で推進するコーディネーターの資質、育成方法などについて調査・研究・検討を深め、「ESDコーディネーター育成のあり方について」を作成しました。(環境省請負事業)

この事業でめざしたこと

ESDを活性化する、学習コーディネーターの育成方法についての方向性を示し、コーディネーターの社会的認知を高める。

成果

- 1 ESDコーディネーター像、役割、必要な7つの視点などを整理できた。
- 2 ESDコーディネーターの育成に関する2種の育成型態(既存講座への組込み型、OJT型)について、モデル実施を踏まえ、整理することができた。
- 3 今後の方向性に関して、講座企画・講師を担当する人材へのアプローチが重要であること、組み込み型研修が有効であること、また、コーディネーターをつなぎ支援しあう仕組みが必要であることが、政府のとりまとめに明記された。

プロジェクトの体制

リーダー： 森 良
事務局： 鈴木 祐司、村上 千里

ESDコーディネーター育成のあり方検討会

梶野 光信(東京都教育庁・社会教育主事)
志賀 誠治(ひろしま自然学校)
高田 研(都留文科大学)※座長
新田 英理子(日本NPOセンター)
森 良(エコ・コミュニケーションセンター)

事業の主なプロセス

- ESDコーディネーター育成のあり方検討会
第1回：8月11日 第2回：12月14日 第3回：2月15日 第4回：3月4日
- ヒアリング調査(8ヶ所)
- モデル研修の実施(2ヶ所)
 - ① 組み込み型モデル実施(東京/12月17日)
 - ② OJT型研修モデル実施(大阪/10月・1月)

プロジェクトの自己評価

担当理事：森 良(エコ・コミュニケーションセンター)

全国の学校支援本部に登録されているコーディネーターは7,000人近い。それだけ地域の学習に関わるコーディネーターが身近にいるが、どれだけ質の高いコーディネイトができていくかという心もとない。既存の学校の授業や活動のお手伝いに終わっているケースが多い。もしこうしたコーディネーターが、地域のNPOや企業と連携して地域や社会についての学びをコーディネートできれば、それは学校と地域におけるESDの推進にとって飛躍的な発展をもたらすだろう。これは一つの例である。

そのためにだれにどう働きかけたらいいかという基本的な整理ができたことが今年度の成果である。特に、実際に日本ボランティアコーディネーター協会の協力を得、既存のコーディネーター研修への組み込み型研修ができたこと、また、公害地域再生センターの協力を得、大阪の公民館職員やNPOリーダーなどに4ヶ月間のOJT型研修ができたことは、具体的な方策の有効性の検証となった。

ESD戦略講座 ESD的アプローチ実践講座のモデル実施

2009年に環境保全戦略講座として開発・実施した講座をブラッシュアップし、地域でESDを組み立てていく際の知識やスキルを、実践も交えながら学ぶ研修を実施しました。

この事業でめざしたこと

ESD推進に資する研修のあり方を探り、モデルを示す。

成果

- 1 モデルで示した技術は具体的でわかりやすく、参加者の満足度も高かった。
- 2 ゆとりのある柔軟な講座運営は、参加者の参加度合いを高めるために非常に重要であるが、実際の講座運営を通してそれを伝えることができた。
- 3 「伝える技術」「調べる技術」「引き出す技術」それぞれに、具体的な技術や工夫を整理することができた。

プロジェクトの体制

リーダー： 大島 順子
 事務局： 村上 千里、中塚 美恵
 協力者： 川嶋 直(キープ協会)、嵯峨 創平(環境文化のための対話研究所)
 青木 将幸(青木将幸ファシリテーター事務所)

事業の主なプロセス

- ESD的アプローチ実践講座
 日時：12月11日(土)～12日(日)
 会場：リコー東松山研修センター
 参加者：持続可能な社会づくり・地域づくりに取り組むNPO/NGO等 18名
 主なプログラム：
 【1日目】 ①持続可能な社会づくりと教育・コミュニケーション、②講師紹介と3つのスキル、③ESD×自分史づくり、④今日の発見を活動につなぐ
 【2日目】 ESD的アプローチ スキルアップトレーニング(講義と実習)、⑤ふりかえりと今後に向けて



ESD的アプローチ実践講座実習風景

プロジェクトの自己評価

担当理事：大島 順子(琉球大学)

ESD推進に資する研修のあり方を探ることを目的に、市民の主体性や問題意識を引き出し、社会に参画する力を育むアプローチとして、今年度は「伝える技術」「調べる技術」「引き出す技術」を取り上げた。スキルそのものは特別新しいものではないが、その具体的な技術や工夫を、参加者が各々の持続可能な社会づくり・地域づくりにおいて直面するであろう具体的な問題と関連させて、その領域の実践家から直接学べたことはESD的なアプローチの特長を顕著にさせ、参加者の満足度を引き上げることに繋がったと思われる。ESD戦略講座としてスキルを身につけることを目的とした研修は、ESDについてある程度知識や体験を持つ中級レベルの対象者に実施できると、より効果が引き出せるのではないかと考える。

ESDの実践者を知り、語る「ESDカフェ」の開催

実践者、研究者の話題提供をベースに、ワールドカフェ*でESDのあり方、視点を学びあう「ESDカフェ」を2回実施しました。生物多様性に関連したテーマでのカフェを行い、それぞれ海外からのゲストを迎えました。

この事業でめざしたこと

会員の参加/交流の機会をつくとともに、実践から学ぶ場を提供する。また、インターンの継続的な活動の場をつくり、人材を育成する。

成果

- 1 海外の生物多様性とESDに深くかかわる専門家の来日に合わせ、COP10の前後に、重要なテーマに関わるカフェをタイミングよく開催できた。
- 2 逐次通訳を入れたカフェは今回が初めてだったが、必要な情報を十分に共有することができた。
- 3 第12回のカフェでは、学生ボランティアと事務局のボランティアが協働して、遺伝子組み換え作物の日本における現状について内容の濃い調査をした。この周辺情報のインプットもあり、議論をより発展させることができた。

プロジェクトの体制

リーダー： 大島 順子
 事務局： 野口 扶美子、佐々木 雅一
 協力者： CSOラーニングインターンほか

事業の主なプロセス

- ◎第11回 「心の開発『サルボダヤ運動』と生物多様性—村民のエンパワメントから始まる暮らしと自然の持続可能性—」
 日時：9月11日 会場：EPO会議室(東京)
- ◎第12回 「Bt. Brinjal: 政府・NGO・農民間の対話にみるESD—インドにおける遺伝子組み換えのナスの導入をめぐる—」
 日時：12月13日 会場：立教大学



第11回ESDカフェ

プロジェクトの自己評価

担当理事：大島 順子(琉球大学)

会員の参加や交流の機会をつくり、実践から学ぶ機会を提供する一方的な情報提供に留まらない多様なスタイルでのESDカフェが展開できた。しかしながら、予定した回数の半分以下の開催になったことから、ESDカフェの役割を十分に発揮できるような運営体制づくりが必要である。

* ワールドカフェ：カフェのようなくつろいだ空間で、参加者がルールに沿って自由に会話をを行い、創造的なアイデアや知識を生み出したり互いの理解を深めたりできる可能性を秘めた話し合いの手法。

企業におけるESD (=CSR教育) の調査、支援

CSR担当者向け研修や企業内研修等により、企業におけるESDの普及啓発やESD的な手法の普及を行いました。

この事業でめざしたこと

企業におけるESD的な人材育成のあり方の検討や、実施の支援を通じて、企業に勤める大人たちの意識改革を促す先進事例を創造する。

成果

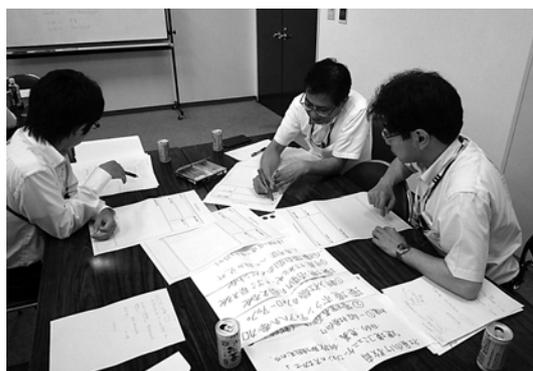
- 1 持続可能な社会をつくるための重要な概念について、経団連研修に参加した企業のCSR担当者に伝えることができた。
- 2 企業の社員が、環境に取り組む意義や、さまざまな主体による対話の重要性を認識することができた。

プロジェクトの体制

リーダー： 榎本 育生
 事務局： 佐々木 雅一、村上 千里
 協力者： 田之下 雅之(Tクラフト・プラス)

事業の主なプロセス

- CSR担当者向けESD研修
 経団連主催のCSR担当者研修において、企業におけるESDの意義と取り組み方について研修を実施した。
 10月27日：経団連社会貢献基礎講座
- 東洋製罐 環境コミュニケーション戦略対話
 東洋製罐の環境コミュニケーションのあり方の検討やプログラム策定を、ESD的な手法で支援した。
 8月16日： 第1回ダイアログ
 8月23日： 第2回ダイアログ
 9月2日： 第3回ダイアログ
- パナソニックR&Dユニオン研修
 労働組合の幹部に対し、企業におけるESDの意義と取り組み方について研修を実施した。
 10月29日：パナソニックR&Dユニオン研修



「ESDレポート」26号で紹介した
 東洋製罐 環境コミュニケーション戦略対話

プロジェクトの自己評価

担当理事：榎本 育生(環境市民)

- 1) 企業、経済界、労組にESDを伝え、またそれを活かしてCSR活動を具体化し、提案できたことは評価できる。
- 2) 企業のCSR活動に具体的な提案ができたが、実施に至るプロセスへのアプローチは課題である。

2010年度の重点項目

- ESD-Jのこれまでの活動と成果をわかりやすい形に取りまとめ、発信する。
- 機関紙、ウェブサイト、メールマガジン等のメディアを通じて、国内外のESDに関する情報を発信するとともに、ESD-Jの事業に関する成果も積極的に発信していく。
- ツイッターや動画配信など新たなメディアツールの可能性を探る。

2010年度の主な情報共有事業

1) 活動成果普及リーフレットの発行準備

ESD-Jがこれまで取り組んだ活動とその成果を整理し、会員および関係者への理解を促すとともに、ESDの10年の最終年に向けたロードマップ、ESD-Jの重点アクションを発信し、広く参加を呼びかけるため、活動成果普及リーフレットの発行準備を進めた。

2) 機関紙「ESDレポート」の発行 (p24)

ESDの実践や国内外の動き、ESDの実施に役立つ情報の提供などを、「ESDレポート」の発行を通じて行い、ESDの理解と普及を促進した。特に紙媒体の特性を活かし、ESDの事例調査や会員の活動、視点紹介など、じっくり読む情報発信を重視した。



季刊の「ESDレポート」

3) 各種メディア(ウェブ、メールマガジン等)を通じた情報発信



紙媒体以外にも、ウェブサイトやメールマガジンなどさまざまなメディアを通じてESDの理解と普及を促進した。特に電子メディアならではの活動プロセスやイベント案内、会員間のコミュニケーションなどタイムリーな情報発信を重視した。さらに、ツイッターや動画配信などの新たな情報発信手法についても検討を行った。

ESD-Jのウェブサイト
<http://www.esd-j.org>

ソーシャルメディアを活用した新たな情報発信の展開へ



理事/情報共有PTリーダー：吉澤 卓
(ビッグバン・ハウス)

ESD-Jは、現在まで、紙面レポート編集発行、ウェブサイト運営、メーリングリスト管理、メールマガジン発行など、ごく一般的なツールを用いて会員のみならず、そして日本や世界のESD実践者、関心者への情報発信を行ってきました。

これらの活動は今後もコミュニケーションの軸でありつづけます。紙面レポートに関しては、今後も事務局マンパワーの一定量を割り年間4回の発行をめざします。

メールマガジンも、タイムリーに情報を提供できるよう随時発行を行います。

そして、ESDに関する情報のやりとりを今以上に活発化させるためには、みなさんの協力、コラボレーションが不可欠です。ESDの担い手は日本、そして世界中に展開しています。それぞれの活動でのレポート、記事などを自分のメディアで自分の言葉で発信していきましょう。できれば発信したことをいつものネットワークを超えて伝えるために、ソーシャルメディアをぜひ活用していただきたいと思います。

以下、会員のみならずにとくにお願いします。

- みなさんの関係する団体や、個人での発信を共有してください。

ブログエントリを行ったり、団体ページの更新をしたら、ESD-Jのメーリングリストに投稿してください。

- ツイッターに挑戦してください。

みなさんの日常を発信することで、持続可能な社会のイメージを共有する人が増えるかもしれません。ブログに記事を書いたことをつぶやけば、かならず何人かの人がブログを読んでもくれます。重要な内容だと思ったら、読んだ人がまたブログを紹介してくれます。

- SNS「フェイスブック」や地域SNSに挑戦してください。

日本では、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が民間企業をつくる会員制交流サイト、のような位置づけになっていますが、SNSはもっと私たちの力になってくれる仕組みです。まだまだ使い勝手の面で改善の余地はありますが、地域や国内、世界とのやりとりをもっと上手にできるようになるはずですよ。

- 環境省の「+ESDプロジェクト」ウェブサイトを活用してください。

環境省が今年の2月から運用を始めた「+ESDプロジェクト」ウェブサイトは、日本のESDの実践事例の登録を通じて、ESDの見える化、つながる化をはかるための仕組みです。ESD-Jは、本年度に引き続き来年度も事務局業務を受託する予定です。環境省の主導する事業ですが、これを私たち自身が利用し活用することが、ウェブサイトおよびESDの活性化につながります。

事務局では、このウェブサイトの活性化にツイッターやフェイスブックを活用する計画をたてていますので、ぜひみなさんもこのウェブサイトの情報登録にご協力ください。

機関紙「ESDレポート」の発行

ESDの実践や国内外の動き、ESDの実施に役立つ情報の提供などを、「ESDレポート」の発行を通じて行い、ESDの理解と普及を促進しました。特に紙媒体の特性を活かし、ESDの事例調査や会員の活動、視点紹介など、じっくり読む情報発信を重視しました。

この事業でめざしたこと

ESDに関する情報の提供、認知度アップを図る。

成果

- 1 年3回の発行を行った(制作編集は4回分を行ったが、震災等の影響により1回分が次年度発行となった)。
- 2 本年度から各号にテーマを設定し、すべてのコーナーがテーマに連動したコンテンツを提供するよう編集方針を変更した。
- 3 23号において、ESD-Jの中期戦略(中間報告)を示し、2014年に向けた方向性の提示と問いかけを行った。
- 4 本年度のESD-J重点活動の「生物多様性」「学校と地域」をそれぞれ24号、25号の特集として紹介した。

プロジェクトの体制

リーダー： 吉澤 卓
 事務局： 佐々木 雅一、長澤 正嘉、村上 千里
 編集・執筆・協力： 情報PTメンバー、各執筆者、各取材対象者

事業の主なプロセス

23号	6月9日編集会議	→ 8月13日発行
24号	8月25日編集会議	→ 10月12日発行
25号	11月30日編集会議	→ 1月17日発行
26号	1月26日編集会議	→ 4月15日発行予定

プロジェクトの自己評価

担当理事：吉澤 卓(ビッグバン・ハウス)

- 1) 編集協力者の力を借りながら、テーマ性のある発信が一定レベルでできた。
- 2) ESD初心者など、前提となる情報をもたない読者への配慮は不足しているといえる。限られた紙面であるが、以降は配慮をしっかりと行いたい。



23号 <特集> 2014年に向けた、私のアクションプラン

- ◆2014年に向けた、私のアクションプラン
「ESD-J全国ミーティング2010」参加者の「私のアクションプラン」の紹介
- ◆2014年に向けESD-Jは何を目指すべきか？
ESD-Jの中期戦略(中間報告)より
2010年度の重点的な活動
- ◆新体制となったESD-J
社会全体が変革の必要性を痛感し始めている今こそ
地域の会員交流の核となる地域担当理事
- ◆レスター・ブラウン シンポジウム報告



24号 <特集> 生物多様性と人づくりのいい関係

- ◆学びの場をデザインする
蔵前干潟を守りぬいた「学び」の要素
——市民のエンパワメントと価値観・社会観の見直しのプロセス
- ◆つなぐ人の視線<第9回>
自分の思っていることを追求すれば、決してがっかりする結果にはならない
サルボダヤ・シュラマダーナ運動創始者 A.T.アリアラトネ博士
- ◆数字で見る“社会”
110種 1日に地球上から消えている生物種の数
- ◆発見-身近な活動のESDらしさ
公園内の未利用地で冒険遊び場づくり
- ◆会員リレーコラム/私たちがESD-Jに入ったわけ
- ◆ESD-Jの活動紹介
アジアNGOネットワークに向けた第一歩 スラバヤ(インドネシア)ワークショップ報告



25号 <特集> 学校と地域で取り組むESD

- ◆学びの場をデザインする
「天城学習」で生徒の自尊感情を高める
ESDを進める教員たちの思いと手ごたえ
- ◆つなぐ人の視線<第10回>
地域と学校のつなぎ手の思いが地域を変える
地域コーディネーター (布昭子さん/水木優香さん/白鳥円啓さん)
- ◆数字で見る“社会”
6,795人 学校支援地域本部で登録されている全国の地域コーディネーター数
- ◆会員リレーコラム/私たちがESD-Jに入ったわけ
- ◆ESD-Jの活動紹介
地域ぐるみで「次世代の市民」を育てる
～「ユネスコパートナーシップ事業」の取り組みから～

2010年度の重点項目

- 関係機関と連携しつつ、国際的なESD情報を国内へ提供する。
- さまざまな国内情報を提供することにより、国際社会において、日本のESDの視点・活動のプレゼンスを向上させる。
- アジアを中心とするESDの推進と発展のためのネットワークの再構築について検討する。
- ESDを進めるために有効なNPO/NGOの国際協力・国際貢献の仕組みを検討する。
- 生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)に対して、ESDという立場から貢献する。

2010年度の主な国際ネットワーク事業

1) ESDに関する内外の重要情報の収集・提供とそのための体制の強化

ユネスコほかESDを進める国際主要機関が発信する関連情報を国内に提供した。また、情報収集のための会員内外の関係機関、研究者、実践者などとの連携関係を強化した。

2) アジアESDネットワーク再構築に向けた検討 (☞p28)

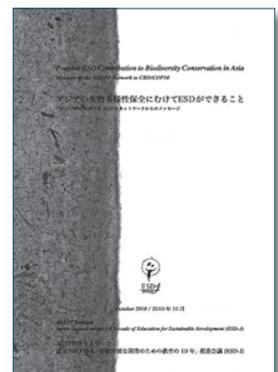
2014年国連ESDの10年最終年に向け、アジアにおけるESD推進のためのNGOネットワーク構築に向けた議論を展開した。8月には、インドネシアにおいて、アジア5~6カ国のNGOとネットワークの有効性・意義についての議論を行った。また、12月には、インドネシアワークショップの成果を基に、ネットワーク設立・運営に向けた国際協力の必要性や支援のあり方について検討する公開フォーラムを開催した。(米国キャタピラ財団助成事業)

3) 持続可能な開発の促進・強化に向けたフォーラムの企画・開催、提言の検討 (☞p32)

アジア地域において日本のNGOが持続可能な開発に向けた活動をより活発化していくうえでの課題の整理や情報共有基盤の構築、求められる政府からの支援のあり方について検討を行うとともに、幅広いNGO・研究者・関係機関・省庁と議論をするためのフォーラムを実施し、提言を取りまとめた。

4) CBD/COP10に向けたESDからの提言とサイドイベントへの参加 (☞p6)

CBD/COP10へのESD分野からの貢献を行った。「ESD×生物多様性」事業やアジア実践事例交流事業(AGEPP)の国内およびアジア地域における地域再生や地域づくりにおける課題を関連付けて整理し、その視点を盛り込んだ提言を作成し、サイドイベント等を通してアピールした。



CBD/COP10に向けた提言書

ESD国際ネットワーク構築に向けた再出発

理事/国際ネットワークPTリーダー 鈴木 克徳
(金沢大学)



2010年度は、ESD-Jにとって国際分野では大きな節目になる年となりました。ESDの10年の主導機関であるユネスコでは、「前半5年間の成果の中間評価と後半5年間の戦略」に関するレポートが採択され、ESDの10年の後半に向けて活動を加速化すべくアクセルが踏まれました。また、2012年に予定されるRio+20、2014年に予定される最終年総括会合に向けての検討も進み始めました。それらの情報は、会員の皆さんからの情報提供などを含め、ある程度共有されましたが、今後、2014年に向けてさまざまな活動が活発化する中、幅広い関係者が情報を共有できるような体制づくりを進めていく必要があります。

ESD-Jが設立当初からの課題のひとつとしていたアジアを中心とする市民社会のESDネットワークについては、2010年8月にインドネシアのスラバヤで開催したワークショップで、その意義及び必要性についてAGEPP関係者による再確認が行われ、2014年までにネットワークを設立すべく活動が再開されました。また、2014年のネットワーク構築に向けて行う具体的な優先的活動についても、このワークショップで特定されました。また、生物多様性保護のためにESDが果たし得る役割についてのメッセージも取りまとめられ、10月のCBD/COP10で周知されました。ワークショップの成果と合意事項は、同年12月に東京で開かれた国際公開フォーラムでも発表され、多くの国内関係者と共有されました。今後は、ネットワーク構築に向けて、具体的な国際協力プロジェクトを実施することにより、目に見える連携協力の成果を示し、関係者間のネットワーク形成に向けた機運を高めていく必要があります。2011年度には、具体的なプロジェクトの形成と事業の開始を図りたいと考えています。

ESDを進めるためにNPO/NGOが国際協力・国際貢献を有効に行えるような仕組みの改善検討を2008年度から実施してきましたが、NGO連携検討会合による提言が取りまとめられたことにより、本活動は一段落しました。提言は、①ODAポリシーの再検討と支援スキームの柔軟化、②途上国・NGO双方における人材育成、③持続可能な開発の視点からのプロジェクト評価指標の開発、及び④事例・リソース・ノウハウ共有のためのプラットフォーム形成の4つの事項について、現場での経験を踏まえた具体的な提案が行われています。また、この活動を通じてESD関係のNGOと国際協力関係のNGOとのつながりが構築・強化され、また、これまで国内のみで活動してきたNGOと海外のNGOとの連携が模索されるようになったことは大きな成果だと考えています。今後は、提言が環境基本計画の見直しや政府のODA政策の見直しに反映されるよう働きかけていくとともに、さまざまな異なる分野のNGO間の交流のプラットフォームづくりが進むよう努力する必要があります。

2010年10月には、生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)が名古屋で開かれ、世界中から13,000人以上の関係者が集まる中、サイドイベントを通じてCBD事務局関係者、国際自然保護連合(IUCN)等とESDによるCBDへの貢献の可能性につき認識を共有し、CBDとESDとの連携を推進することを合意した意義は大きいと考えられます。また、当初は予定していませんでしたが、関係者の尽力により、CBD市民ネットの開発作業部会へも大きく貢献することができました。今後、生物多様性の10年(CBDの10年)の推進に際し、ESDの10年を通じて培ってきた活動基盤を活用することにより、CBDのより円滑な推進が行われるよう、連携協力を強化していくことが期待されます。

アジアESDネットワーク再構築に向けた検討

2014年国連ESDの10年最終年に向け、アジアにおけるESD推進のためのNGOネットワーク構築に向けた議論を展開しました。8月にはインドネシアにおいて、アジア5～6カ国のNGOとネットワークの有効性・意義についての議論を行い、12月にはインドネシアワークショップの成果を基に、ネットワーク設立・運営に向けた国際協力の必要性や支援のあり方について検討する公開フォーラムを開催しました（米国キャタピラ財団助成事業）。

この事業でめざしたこと

2014年に向けたアジアにおけるESDの推進のためのNGOネットワークの構築について検討する。

成果

- 1 アジアでのワークショップ*¹および国内での国際公開フォーラム*²を実施することができた。
- 2 アジアのワークショップでは、AGEPPのメンバーであるBINTARIと協力して開催準備を進め、BINTARIとのパートナーシップの強化にもつながった。
- 3 ワークショップはAGEPPの活動事例地域で実施し、地域の課題や取組みを目の当たりにしたことで議論をより一層深めることができた。
- 4 アジアのNGOによるESDネットワークの意義と必要性について再確認された。また、2014年に向けて実施したい活動の内容を討議し、取りまとめた。
- 5 東京で実施した国際公開フォーラムには、ユネスコ、国連大学をはじめ文部科学省、環境省、JICA、国際交流基金等、ESDを進める主要機関の参加を得ることができ、国際的な取組みを公の場で共有できた。

アジアにおけるNGOのESD活動に焦点を置き、ESDに関する国際な取組みを行うアジアリージョンや国内の主要機関が顔を合わせ、情報を共有したのは、今回が初めてである。

- 6 国際公開フォーラムでは、一般の参加者にも、アジアにおけるNGOによるESD活動の重要性や、ネットワークの必要性について理解を得ることができ、今後の連携・協働の可能性についても確認を行った。

*1：スラバヤ・ワークショップ(インドネシア)

*2：アジアと日本をむすぶ国際公開フォーラム(東京)

プロジェクトの体制

リーダー： 鈴木 克徳
事務局： 野口 扶美子
協力者： 山下 邦明

事業の主なプロセス

4月	アジアワークショップ・国内フォーラム企画、海外参加者選定
5月	海外参加者招聘状、会議アジェンダ・開催概要作成
6～7月	海外参加者への課題出しと回収、会議資料作成
8月 1～4日	アジアワークショップ実施
9～11月	国際公開フォーラム準備
12月 12日	国際公開フォーラム実施
1～3月	成果とりまとめ
3月	報告書作成

◆スラバヤ・ワークショップ

日程： 2010年8月1日～4日

場所： PPLH環境教育センター（インドネシア スラバヤ市郊外）

共催： BINTARI財団

対象： AGEPP関連NGO7団体、11名

- アジアにおけるESDのNGOネットワークの必要性・重要性・目的・オーナーシップ、ガバナンスのあり方、アジアでESDを進める上で求められる支援や協力などについて明確化した。
- CBD/COP10に向けてESDによるCBDへの貢献をまとめたメッセージを作成した。



ワークショップの参加メンバー

◆アジアと日本をむすぶ国際公開フォーラム

日程： 2010年12月12日

場所： 立教大学太刀川記念館

共催： 立教大学ESD研究センター

参加者： 国連機関（UNESCO、UNU）、アジアNGO、日本政府機関、ODA担当機関、国際協力NGO、研究者、学生など50名程度

- アジアオンサイトワークショップで得られた成果を幅広い国内関係者の間で共有した。
- アジアにおけるESD強化に向けた次のステップとそれぞれの関係者が果たすべき役割についての意見を交換した。



国際公開フォーラムに集まった関係機関等

プロジェクトの自己評価

担当理事：鈴木 克徳（金沢大学）

- 1) 全体的には所期目的を達成することができた。特に、アジアのESDネットワークについて議論し、その意義、必要性等につき関係者間で再確認が行われた意義は大きい。また、CBD/COP10に対するアジアのESD関係者（AGEPPメンバー）からの明確なメッセージを作成したことも、スラバヤ・ワークショップの大きな成果と考えられる。
- 2) 国際公開フォーラムは、立教大学ESD研究センターの支援を得て開催し、これまで比較的疎遠であったNGOとの連携を深める場として大きな意義があった。一方で、期待した参加者数が得られなかったことは今後の課題と考えられる。

持続可能な開発の促進・強化に向けた フォーラムの企画・開催、提言の検討

アジア地域において日本のNGOが持続可能な開発に向けた活動をより活発化していくうえでの課題の整理や情報共有基盤の構築、求められる政府からの支援のあり方について検討を行うとともに、幅広いNGO・研究者・関係機関・省庁と議論をするためのフォーラムを実施し、提言を取りまとめました。

この事業でめざしたこと

ESDを進めるためにNPO/NGOが国際協力・国際貢献を有効に行えるような仕組みの改善を検討する。

成果

1 NGO連携検討会合を実施し、提言を取りまとめた。

2009年度のNGO連携検討会合の参加NGOおよび関連情報提供機関が参加し、全3回の会合を行った。2009年度整理された提言案を深め、NGO連携フォーラムの討議結果を踏まえ、最終的にNGO連携検討会合による提言を取りまとめた。

2 NGO連携フォーラムを企画・開催した。

NGO連携検討会合で選定されたメンバーでNGO連携フォーラム企画委員会を結成し、NGO連携フォーラムの企画実施に関する検討のため3回の会合を実施した。この検討を踏まえ、2011年3月にNGO連携フォーラムを開催した。

プロジェクトの体制

リーダー： 鈴木 克徳

事務局： 野口 扶美子、村上 千里

協力者： 山下 邦明

事業の主なプロセス

9月28日	第一回NGO連携検討会合
10月27日	第一回NGO連携フォーラム企画委員会
11月	NGO連携フォーラム企画素案作成
12月16日	第二回NGO連携検討会合
12月17日	第二回NGO連携フォーラム企画委員会
1~2月	NGO連携フォーラム企画案確定 リソースパーソン等の調整開始
3月8日	NGO連携フォーラム開催
3月9日	NGO連携フォーラム検討委員会(フォローアップ会合)
3月	報告書および提言書の作成

■NGO連携検討会合

NGO連携検討会合には、NGO10 団体からの参加者のほか、ネットワーク型の NGO、持続可能な開発・地域づくりに関連した活動を実施する政府開発援助組織、国連など関連機関からの情報提供者を招聘した。

NGOの参加10団体：(NPO)エコ・コミュニケーションセンター、(財)オイスカ、(NPO)環境修復保全機構、(財)ジョイセフ、(NPO)ソムニード、日本国際飢餓対策機構、(認定NPO)地球市民の会、(認定NPO)難民を助ける会、(社)日本ユネスコ協会連盟、(財)ユネスコ・アジア文化センター

■NGO連携フォーラム(3月8日)

フォーラムでは、NGO連携検討会合で作成した提言案を公開し、提言案をもとに、特にアジア地域を中心とする国内NGOによる国際協力を推進するため、持続可能な開発を有効に進めていくための人づくり、指標、交流・連携のあり方などについて討議した。国内の特に農村部における地域再生と途上国の地域づくり課題を関連づけて議論を進めていくため、国内の地域づくりNGOも、フォーラムに参加した。

対象：70名程度の国際協力NGO、国内地域づくりNGO、関連省庁、企業、研究者などが参加。

■NGO連携検討会合提言(提言書)



プロジェクトの自己評価

担当理事：鈴木 克徳(金沢大学)

- 1) 所期目的は概ね達成できた。特に、以下の点に関する知見の集積は大きな成果と考えられる。
 - ① ESD 関係の NGO と国際協力関係の NGO とのつながりが構築・強化されたこと
 - ② 国内で活動する NGO と海外の NGO との連携が模索されるようになったこと
 - ③ さまざまな異なる分野の NGO 間の交流のプラットフォームの重要性について共通認識が醸成されたこと
- 2) NGO 連携フォーラムについては、より多くの参加者を得ることが期待された。また、時間的な制約があり、必ずしも十分な時間を議論に割くことができなかった。
- 3) NGO 連携検討会合委員の大きな努力により提言が最終化され、印刷されたことは大きな成果である。今後、その周知、活用が図られるよう必要な措置を講ずることが重要である。

ESD-J 2010 年度活動履歴

4月 8日	第14回ESD関係機関情報交換会合 参加
4月13日	NGO・外務省定期協議会 参加
4月14日	SR円卓会議「人を育む」ワーキング準備会合 参加
4月25日	「ESD×生物多様性」中国ワークショップin岡山 開催
5月 8日	第1回理事会 開催
5月12日	天城中学校 教員研修 講師
5月15日-16日	「ESD×生物多様性」九州ワークショップin鹿児島 開催
5月19日	民主党議員政策研究会 講演
5月27日	レスター R ブラウン シンポジウム 共催
5月29日	「ESD×生物多様性」東北ワークショップin宮城 開催
6月 5日	CBD市民ネット「生物多様性×開発」作業部会 参加
6月 7日	「ESD×生物多様性」分析・検討ワーキング 開催
6月12日	ESD-J全国ミーティング2010「100人の思い・知恵・経験 集まれ—ESDを議論するワールドカフェ」開催
6月13日	「ESD×生物多様性」地域担当者会議 開催 地域担当理事ミーティング 開催
6月18日	第2回理事会 開催
6月29日	CBD市民ネット「生物多様性×開発」作業部会 参加
7月 6日	SR円卓会議 人づくりワーキンググループ 出席
7月 9日	ボランティアカフェ 開催
7月12日	文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 第1回 多摩市ESD実践研修 開催 CBD市民ネット開発作業部会公開学習会 開催
7月21日	ESD×生物多様性 分析検討会議 開催
7月23日	CBD市民ネット開発作業部会 出席
7月29日	第15回ESD関係機関情報交換会合 出席
8月 1日- 4日	アジアNGOネットワーク検討ワークショップ (スラバヤ・ワークショップ)開催
8月 2日	文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 文京区ESDセミナー 開催
8月 4日	文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 多摩市ESDセミナー 開催
8月 9日	玉川大学 ESDセミナー 出席
8月 9日	ボランティアカフェ 開催
8月11日	環境省 第1回ESDコーディネーター育成のあり方検討会 開催
8月13日	ESDレポート 23号 発行
8月16日	東洋製罐 環境コミュニケーション戦略対話 第1回ダイアログ 開催
8月23日	東洋製罐 環境コミュニケーション戦略対話 第2回ダイアログ 開催
8月26日	CBD市民ネット開発作業部会 出席 ユネスコスクールにおけるESD普及促進活動事業委員会 出席
9月 2日	東洋製罐 環境コミュニケーション戦略対話 第3回ダイアログ 開催
9月 3日	SR円卓会議 人づくりワーキンググループ 出席
9月 6日	ESD×生物多様性 分析検討会議 開催 文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 第2回 多摩市ESD実践研修 開催
9月10日	地球市民会議 出席
9月11日	スポーツESDキックオフミーティング 出席 第11回 ESDカフェ「心の開発『サルボダヤ運動』と生物多様性」開催
9月14日	CBD市民ネット開発作業部会 出席
9月15日	立教大学CSR×ESD人材育成プログラム発表会 出席
9月28日	環境省NGO連携検討会合 第1回 開催
10月11日- 29日	生物多様性交流フェア 出展
10月12日	ESDレポート 24号 発行
10月13日	「ESDの10年世界の祭典」理事会 出席
10月16日- 17日	環境省 ESDコーディネーター育成 モデル研修 第1回 開催
10月19日	国際フォーラム「ESD Meets CEPA」開催
10月27日	経団連社会貢献基礎講座 講師 環境省 NGO連携フォーラム 企画委員会 第1回 開催
10月29日	パナソニックR&Dユニオン研修 講師
10月30日- 31日	ユネスコスクール全国大会 出席
11月 4日	環境省 +ESDプロジェクトロゴマーク 選考委員会 開催

11月5日	文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 第3回多摩市ESD研修 開催
11月6日-7日	ESD 東北フォーラム 2010 in あきた 出席
11月15日	CBD市民ネット・COP10サイドイベント報告 出席
11月19日	CBD市民ネット開発作業部会 出席
11月27日	地球環境基金助成事業報告会 出席
12月3日	SR円卓会議・協働モデル事業 実行委員会 出席
12月6日	ユネスコスクールにおけるESD普及促進活動事業委員会 出席
12月8日	多摩連光寺小学校研究授業 出席
12月9日	文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 板橋区ESDセミナー 開催
12月11日-12日	ESD的アプローチ実践講座 開催
12月11日	「ESDフォーラム&映画『地球交響曲第七番』上映会」(EPO中国 主催) パネリスト
12月12日	アジアと日本をむすぶ国際公開フォーラム 開催
12月13日	第12回ESDカフェ「Bt. Brinjal: 政府・NGO・農民間の対話にみるESD」開催
12月14日	環境省 第2回ESDコーディネーター育成のあり方検討会 開催
12月16日	環境省 NGO連携検討会合 第2回 開催
12月17日	環境省 NGO連携フォーラム 企画委員会 第2回 開催 SR円卓会議 人づくりワーキンググループ 出席
12月18日	ボランティア・コーディネーター研修会 協力開催 玉川大学 ESDセミナー 出席
12月23日	ESD×生物多様性プロジェクト企画会議 開催 第3回理事会 開催
1月6日	SR円卓会議・協働モデル事業 実行委員会 出席
1月7日	地球市民会議理事会 参加 政策づくりワークショップ(コーディネーター)①開催
1月17日	ESDレポート 25号 発行
1月19日	地球環境基金研修事業実務者ミーティング 参加
1月22日	東京都教育サポーター養成講座 講師派遣
1月28日-29日	環境省 ESDコーディネーター育成 モデル研修 第2回 開催
1月28日	COP10第二回フォローアップ会議 参加 政策づくりワークショップ(コーディネーター)② 開催
1月29日	東京都コーディネーターフォーラム2011 出展 COP10行動計画策定委員会 参加
2月1日	文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 第4回多摩市ESD実践研修 開催
2月3日	SR円卓会議・協働モデル事業 実行委員会 参加
2月7日	ESD円卓会議 出席
2月12日	政策づくりワークショップ(学校と地域で進めるESD) 開催
2月14日	SR円卓会議 NPOセクター会議 参加
2月15日	環境省 第3回ESDコーディネーター育成のあり方検討会 開催
2月18日	環境省 +ESDプロジェクト普及委員会幹事会 開催 文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 小平市ESDセミナー 開催
2月19日	ACCU国際会議 参加
2月21日	文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 第5回多摩市ESD実践研修 開催
2月22日-23日	SR円卓会議・協働モデル事業 共同開催
2月24日	第16回ESD関連機関情報交換会合 開催
3月1日	環境省 +ESDプロジェクト普及委員会総会 開催 環境省 +ESDプロジェクト・キックオフシンポジウム 開催
3月4日	環境省 第4回ESDコーディネーター育成のあり方検討会 開催
3月5日-6日	「2011九州環境教育ミーティングinくまもと」参加 北海道環境教育研究会シンポジウム 参加
3月7日	環境省 +ESDプロジェクト検証検討委員会 開催
3月8日	環境省 NGO連携フォーラム 開催
3月9日	環境省 NGO連携フォーラムフォローアップ会議 開催
3月19日	ESDフォーラム2010「持続可能性×教育」(EPO中部主催) パネリスト
3月31日	ウェブサイトに東日本大震災関連情報を掲載し、情報発信

団体正会員・賛助会員・連携交流団体名簿

団体正会員：86 団体

(公財) 日本野鳥の会
(公財) ボーイスカウト日本連盟
(財) オイスカ
(財) キープ協会
(財) 京都ユースホステル協会
(財) 公害地域再生センター (あおぞら財団)
(財) 日本環境協会
(財) 日本ユニセフ協会
(財) 日本 YMCA 同盟
(財) 北海道国際交流センター
(財) ユネスコ・アジア文化センター
(社) ガールスカウト日本連盟
(社) 青年海外協力協会 (JOCA)
(社) 日本環境教育フォーラム
(社) 日本ネイチャーゲーム協会
(社) 日本ユネスコ協会連盟
(社) 農山漁村文化協会
(社) 部落解放・人権研究所
宗教法人 櫻木神社
国立大学法人 岩手大学
国立大学法人 筑波大学 農林技術センター
国立大学法人 北海道大学
岡山大学ユネスコチュアプログラム
ー持続可能な開発のための研究と教育ー
立教大学 ESD 研究センター
カリタス女子中学高等学校
学校法人 日本自然環境専門学校
岡山市市役所
NPO 法人 岩木山自然学校
NPO 法人 エコケン
NPO 法人 エコ・コミュニケーションセンター (ECOM)
NPO 法人 ECOPLUS
NPO 法人 えひめグローバルネットワーク
NPO 法人 オーシャンファミリー海洋自然体験センター
NPO 法人 開発教育協会
NPO 法人 環境市民
NPO 法人 環境文化のための対話研究所
NPO 法人 環境まちづくりネット
NPO 法人 くすの木自然館
NPO 法人 国頭ツーリズム協会
NPO 法人 グリーンウッド自然体験教育センター
NPO 法人 グローバルプロジェクト推進機構 JEARN
NPO 法人 国際自然大学校
NPO 法人 コミネット協会
NPO 法人 コモンビート
NPO 法人 サイカチネイチャークラブ
NPO 法人 しずおか環境教育研究会 (エコエデュ)
NPO 法人 自然育児友の会
NPO 法人 自然体験活動推進協議会 (CONE)
NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット
NPO 法人 生態教育センター

NPO 法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議 (CASA)
NPO 法人 地球と未来の環境基金
NPO 法人 当別エコロジカルコミュニティー
NPO 法人 ほっとねっと
NPO 法人 ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし
NPO 法人 やまぼうし自然学校
アースビジョン組織委員会
エコテクノロジー研究会
NPO いきいき小豆島
エネルギー環境教育情報センター
岡山ユネスコ協会
環境・国際研究会
環金武湾地球温暖化対策地域協議会
北九州 ESD 協議会
くりこま高原自然学校
こくさいこどもフォーラム岡山
堺市女性団体協議会
サステナブル・アカデミー・ジャパン
世界女性会議 岡山連絡会
仙台いぐね研究会
創価学会平和委員会
ソーラーエネルギー教育協会
田んぼの楽校
TVE ジャパン
日本アウトドアネットワーク
日本環境ジャーナリストの会
日本ホリスティック教育協会
ハーグ平和アピール平和教育地球キャンペーン (GCPEJ)
平和の文化をきづく会
ホールアース自然学校
緑の環・協議会
養生庵
(株) 日本エコプランニングサービス
(株) フルハン環境総合研究所
(有) 全国学校給食協会
(有) プラス・サーキュレーションジャパン

賛助会員：6 団体

王子製紙(株) 環境経営本部
損保ジャパン環境財団
東洋製罐(株)
(株) 日能研
パナソニック(株) 社会文化グループ
(株) 日立製作所 情報・通信システム社 CSR 推進本部

連携・協力団体：5 団体

国際協力機構 地球環境部
国際連合広報センター
国連人口基金東京事務所
国連大学高等研究所
JICA 地球ひろば

(2011年3月31日現在)

役員および実施体制

1. 役員および職員

代表理事	重 政子	NPO法人 自然体験活動推進協議会 / (社)ガールスカウト日本連盟
副代表理事	池田 満之	岡山ユネスコ協会
理事	池田 誠	(財)北海道国際交流センター
	大島 順子	琉球大学
	櫛田 敏宏	愛知県総合教育センター/EPO中部ESD中部イニシアティブプロジェクト
	小金澤 孝昭	宮城教育大学/仙台いぐね研究会
	枚本 育生	NPO法人 環境市民
	鈴木 克徳	金沢大学
	竹内 よし子	NPO法人 えひめグローバルネットワーク
	三隅 佳子	北九州ESD協議会
	村上 千里	認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議
	森 良	NPO法人 エコ・コミュニケーションセンター
	山下 邦明	九州大学/(社)サルボダヤJapan
	吉澤 卓	ビックバン・ハウス(株)
監事	浅見 哲	税理士 浅見哲事務所
	吉岡 睦子	吉岡睦子法律事務所
顧問	阿部 治	立教大学ESD研究センター / (社)日本環境教育フォーラム
	池田 香代子	ドイツ文学翻訳家・口承文芸研究家
	岡島 成行	(社)日本環境教育フォーラム 理事長
	坂本 尚	(社)農山漁村文化協会 専務理事
	CWニコル	作家
	廣野 良吉	成蹊大学名誉教授

事務局	事務局長	村上 千里
	事務局次長	佐々木 雅一
	スタッフ	(常勤) 野口 扶美子、鈴木 祐司、長澤 正嘉 (非常勤) 相良 洋子、中塚 美恵

2. 実施体制

地域ネットワークの形成および交流支援事業	地域PTリーダー	森 良
政策提言および調査研究事業	政策PTリーダー	池田 満之
研修および普及啓発事業	研修普及PTリーダー	大島 順子
情報収集・提供および出版事業	情報PTリーダー	吉澤 卓
国際ネットワーク推進事業	国際PTリーダー	鈴木 克徳
その他の事業	事務局	

地域担当理事	池田 誠 (北海道)、小金澤 孝昭 (東北)、森 良 (関東)、鈴木 克徳 (北陸)、櫛田 敏宏 (東海)、枚本 育生 (近畿)、池田 満之 (中国)、竹内 よし子 (四国)、三隅 佳子・山下 邦明 (九州)、大島 順子 (沖縄)
組織運営理事	重 政子、池田 満之、鈴木 克徳、村上 千里

2010年度予算・決算見込

収支計算書 <2010年4月1日～2011年3月31日 >

単位：円

収入の部	2010年度予算	2010年度決算見込	差異
1 会費収入	3,500,000	2,581,000	919,000
正会員 会費収入	2,200,000	1,497,000	703,000
準会員 会費収入	700,000	384,000	316,000
賛助会員 会費収入	600,000	700,000	-100,000
2 事業収入	29,420,000	31,436,472	-2,016,472
書籍販売	1,000,000	682,085	317,915
イベント・講座収入	420,000	108,500	311,500
受託事業	27,200,000	28,649,493	-1,449,493
研修・講師派遣	800,000	896,394	-96,394
その他事業	0	100,000	-100,000
3 助成金等収入	12,700,000	11,061,500	1,638,500
地球環境基金収入	8,200,000	6,666,000	1,534,000
キャタピラ財団	4,500,000	4,395,500	104,500
その他助成金	0	0	0
協賛金収入	0	1,000,000	-1,000,000
4 寄付金収入	1,500,000	778,261	721,739
寄付金収入	1,500,000	778,261	721,739
5 借入金収入	10,000,000	17,000,000	-7,000,000
短期借入金収入	10,000,000	17,000,000	-7,000,000
6 その他の収入	300,000	2,829	297,171
受取利息	0	2,481	-2,481
雑収入	300,000	348	299,652
当期収入合計(A)	57,420,000	62,860,062	-5,440,062
前期繰越収支差額	23,290,308	17,180,450	6,109,858
前期繰越収支差額調整額		0	
収入合計(B)	80,710,308	80,040,512	669,796

II支出の部	2010年度予算	2010年度決算見込	差異
1 事業費	38,636,000	36,732,923	1,903,078
地域ネットワーク事業	12,354,000	10,282,234	2,071,766
政策提言事業	483,000	821,128	-338,128
研修・普及啓発事業	16,972,000	17,847,521	-875,521
情報提供事業	1,546,500	937,052	609,448
国際ネットワーク事業	7,280,500	6,844,988	435,512
その他事業	0	0	0
2 管理費	8,579,000	8,993,782	-414,782
人件費	3,414,000	3,731,330	-317,330
退職金	0	110,000	-110,000
福利厚生費	316,000	425,251	-109,251
監事・理事報酬	260,000	260,000	0
会議費	50,000	28,688	21,312
交際費	0	5,460	-5,460
旅費交通費	354,000	260,180	93,820
通信運搬費	800,000	891,197	-91,197
消耗什器備品費	50,000	0	50,000
消耗品費	400,000	283,117	116,883
印刷製本費	0	5,200	-5,200
水道光熱費	150,000	126,392	23,608
賃借管理費	1,980,000	1,887,228	92,772
支払手数料	120,000	141,875	-21,875
支払利息	40,000	14,578	25,422
負担金支出	0	30,000	-30,000
為替差益	0	5	-5
雑費	0	9,890	-9,890
租税公課	575,000	713,391	-138,391
法人税・事業税	70,000	70,000	0
3 固定資産取得支出	0	23,500	0
出資金取得支出	0	23,500	0
4 借入金返済支出	9,000,000	11,000,000	-2,000,000
短期借入金返済支出	9,000,000	11,000,000	-2,000,000
5 その他の支出	200,000	0	200,000
予備費	200,000	0	200,000
当期支出合計(C)	56,415,000	56,750,205	-335,205
当期収支差額(A) - (C)	1,005,000	6,109,858	-5,104,858
次期繰越収支差額(B) - (C)	24,295,308	23,290,308	1,005,000

2014 年に向けて ESD 推進の基盤を整えた 1 年

2011 年 3 月 第 1 刷発行

発行人：重 政子

発行：認定特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 B2F

TEL：03-3797-7227 FAX：03-6277-7554

URL：<http://www.esd-j.org>

E-mail：admin@esd-j.org

Education for Sustainable Development

認定特定非営利活動法人
「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

